

シリーズ

森林官からの便り

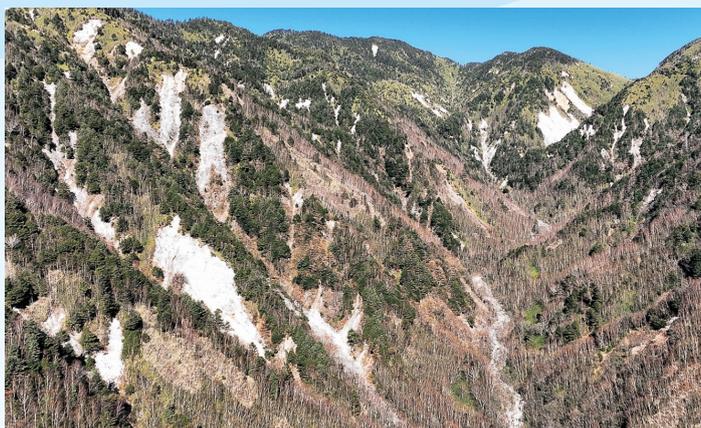
国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

伊那谷総合治山事業所

飯田治山事業所

治山技術官 橋戸 俊

飯田治山事業所は、長野県飯田市に所在し、木曾山脈を源とする天竜川流域の松川上流域において、松川入地区民有林直轄治山事業を治山技術官、主事の二名体制で実行しています。



最上流域の荒廃状況（松川入地区民有林）

約五、三〇四ヘクタールの民有林を事業区域とする松川入地区の治山事業は、昭和二十八年から長野県により実施されてきましたが、昭和三十六年六月の梅雨前線豪雨災害、昭和後期の度重なる台風災害等により荒廃が進み、飯田市民の水源となる県営松川ダムに土砂が流入し、ダム機能の確保が危機的状況となったことから、地元や長野県の要請により、平成五年度から国による民有林直轄事業に着手し、継続的に治山工事を実施し、森林への回復を目指しています。現在は山腹工を主体とした復旧工事を行っています。事業区域の大半は花崗岩深層風化地帯であり、マサ化による侵食が著しい土質で、表層剥離型の崩壊地が散在しています。マサ化した土壌は栄養状態であるため、特に緑化の工種、工法の選択が林地復旧への良い悪しを左右することから、過去の施工実績や復旧状況を参考に

しつつ、現地に適した工種を選択することがポイントとなります。これからも伊那谷総合治山事業所勤務の技術専門官等との打ち合わせを定期的に行い、地域の方々にも治山事業の重要性や必要性をPRしながら、安全・安心を確保する治山事業に取り組みでいきます。



旧庁舎の古材を天井などに活用している伊那谷総合治山事業所の現庁舎



治山工事監督業務の様子（筆者）

■ 未来の担い手へのメッセージ
私自身は、治山業務が三年目となり、工事監督業務等を経験したことで、森林の回復を目的とした治山事業に関わる様々な知識・技術を習得することができ、とてもやりがいを感じています。まだまだ経験が浅いため、今後、経験を積み、知識や技術を習得していきたいと思っています。
工事監督業務を通じ、様々な経験ができるので、一緒に治山事業に取り組んでみませんか。



シリーズ 「私の森語り」

「木を眺める時間」



広葉樹コンシエジュ
眺木展実行委員会代表
委員 及川 幹

■自己紹介

2020年、飛騨市地域おこし協力隊・広葉樹コンシエジュに着任。飛騨市が進める広葉樹のまちづくり事業において、川中を起点とした販路開拓や流通構築に取り組む。現在は、広葉樹の短期乾燥プロジェクトと、製材所の再稼働事業を兼任。

■活動内容

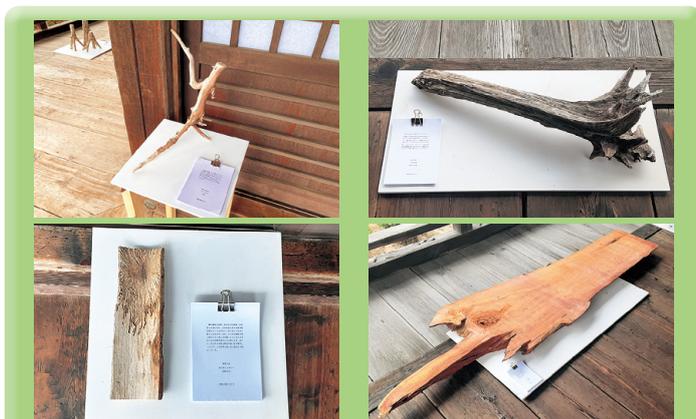
眺めがいのある木のことを「眺木」と名付け、老若男女に楽しんでもらう企画展を開催しています。素材そのものの価値を目利きの評価する銘木とは異なり、眺木には価値の貴賤がありません。

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。



プロアマも関係ありません。それぞれが日々の生活・仕事を営む中で、個人的にひっそりと出会い、見出した眼差しが眺木の源泉となっています。

地域を越えた継続性のある取組にしようと、2023年には眺木展実行委員会という市民有志による任意団体を立ち上げました。非



個性的な眺木たち



木を楽しむ人たち

■メッセージ

木を眺める時間を、この忙しい現代社会の中でも忘れないようにしたいものです。

大の大人が眺木展に何を出そうかと頭を悩ませている姿、子供たちが自由に木を触っている姿、地域のご老人たちが懐かしむように木を眺めている姿、一円も生まない時間ではありますが、この遊びのなかに大事なことが詰まっているように思います。

先の展開が全く予測できない眺木展、今年もたくさんの地域で木を楽しむ人が増えることを願っています。

○連絡先

〒509-4292

岐阜県飛騨市古川町本町二番一号

広葉樹コンシエジュ

<https://www.instagram.com/hardwood.concierge/>

<https://www.instagram.com/chobokuten2023/>

眺木展実行委員会

<https://www.instagram.com/chobokuten2023/>

[chobokuten2023/](https://www.instagram.com/chobokuten2023/)



シリーズ

秘蔵写真

今は昔の林業

第34回

中部森林管理局総務課

井上 日呂登

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介いたします。

「豪雪」

中部森林管理局の管内は南北に広く、地理や高度も様々であり、積雪量も場所や年によって大きな違いがあります。



昭和30年頃、雪に覆われる建設中の飯山営林署庁舎（北信森林管理署の旧庁舎）

中部地方で戦後に記録に残っている大雪としては昭和三十八年の一月から二月にかけての「三八豪雪」、昭和五十五年の十二月から昭和五十六年一月にかけての「五六豪雪」が知られています。



昭和三十八年、雪の中の富山営林署庁舎（富山森林管理署の旧庁舎）



昭和56年、3m積もった屋根の雪おろし（現在の飛騨森林管理署管内）

こうした豪雪の際、山間部では集落の長期にわたる孤立、建物の倒壊、物資不足などが

発生し、営林署関係者も雪おろしや除雪作業、地元との協力などの対応に追われることとなりました。

また豪雪の際には林木の折損・倒伏といった森林の被害、各種作業の中断・交通機関の混乱による木材出荷量の減少など、林業・木材産業にも雪が解けた後まで続く大きな影響が現れました。



昭和38年、岐阜県荘川村の救急患者を高山市内の病院に運ぶ（後方車両が村役場のもので患者が乗車。前方車両が荘川営林署のもので、営林署の職員もロープで牽引している。／現在の飛騨森林管理署管内）

ここで紹介している写真は、「モノクロ森林紀行」で紹介しております。これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むかししの写真を紹介するサイトです。当サイトへは、コードを読み込んでください。



シリーズ

豪雪地帯のオオシラビソの天然林

立山オオシラビソ 希少個体群保護林

設定目的

日本有数の豪雪地である立山弥陀ヶ原たてやまみだがはらには、針葉樹の中でも積雪の多い山になるほど優勢となるオオシラビソ（アオモリトドマツ）がまとまって生育しています。豪雪地における特徴的な天然林として、当該個体群の保護・管理をしています。

地況・林況

当保護林は、富山県の常願寺川源流域じょうがんじがわにある弥陀ヶ原周辺の北々西向き斜面に位置しています。日本海側気候の影響を強く受け、冬季には四日以上以上の積雪がみられます。

植生については、オオシラビソが高木層の優占種となっていますが、風衝面や雪の影響を大きく受ける箇所では矮小化し疎林状となり、ダケカンバやコマツガ等が生育しています。

所在地
富山県 中新川郡 立山町



国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正4年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。



※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課 ダイヤルイン：026-236-2612



活躍を祈念して、山形へ向けてみんなで応援のメールを送りましょう!



一月二十日から二日間にわたり開催された同競技会の岐阜県予選会において、大学生等の強豪を相手に激走した青木さんは、男子成年A組十キロレクリカルで二位となり、全国大会の切符を手に入れました。

今月二十一日から山形県で開催される「第七十八回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会」のクロスカントリー競技大会に岐阜森林管理署濁河森林事務所の青木さんが岐阜県代表として出場することとなりました!

岐阜署の青木徹郎さん
国スポ出場おめでとう!

令和5年度 GSS撮影 フォト特集

各地のGSS（グリーンサポートスタッフ）が今年度撮影した活動写真の中から、デジタル森林紀行に追加予定の写真を紹介します!



金華山GSS（岐阜署）
ツブラジイ 5/10



天生GSS（飛騨署）
咲き始めたアカモノ 6/19



カヤの平GSS（北信署）
高標山山頂からの眺め 8/10



上高地GSS（中信署）
ウスノキの実 8/16



北アルプスGSS（富山署）
仙人池と裏剣 8/29



美ヶ原GSS（中信署）
ツタウルシの紅葉 10/1



中央アルプスGSS（南信署）
薄化粧の天狗岩 10/6



万波GSS（飛騨署）
白木峰のブナ黄葉 10/17

編集長だより

（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。）

日本の山に自生し、紅葉が美しいことで有名な落葉広葉樹である「ナナカマド」の名前の由来は、材がかたくて7回カマドに入れても燃え尽きない木だからとか、7日間炭窯で蒸し焼きにしても燃え尽きずに良質な木炭になるからなどという話を聞いたことがある方もいると思います。昔から人々の生活に寄り添い、春の芽吹き、新緑、秋の紅葉など四季折々の山の風景を彩るナナカマドは、見る人を笑顔にしてくれる存在でもあります。

先日、局庁舎の庭が真っ白な雪に覆われる中、鳥たちが集まるナナカマドの木に色づく真っ赤な実が心が惹かれ、眺めているうちに優しい温もりのようなパワーを感じたので、広報室からカメラを持ち出して本誌表紙の写真を撮影しました。

ナナカマドの名前の由来などを知っていたからパワーを感じたのかも知れませんが、能登半島地震の被災地の方々や寒い冬にがんばっているすべての皆様に、表紙の写真とともに中部森林管理局からパワーを送ります!



デジタルテーマ「白」

17. 穂高 蒲田左俣林道（飛騨署管内）

中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。



中部森林管理局
ホームページ

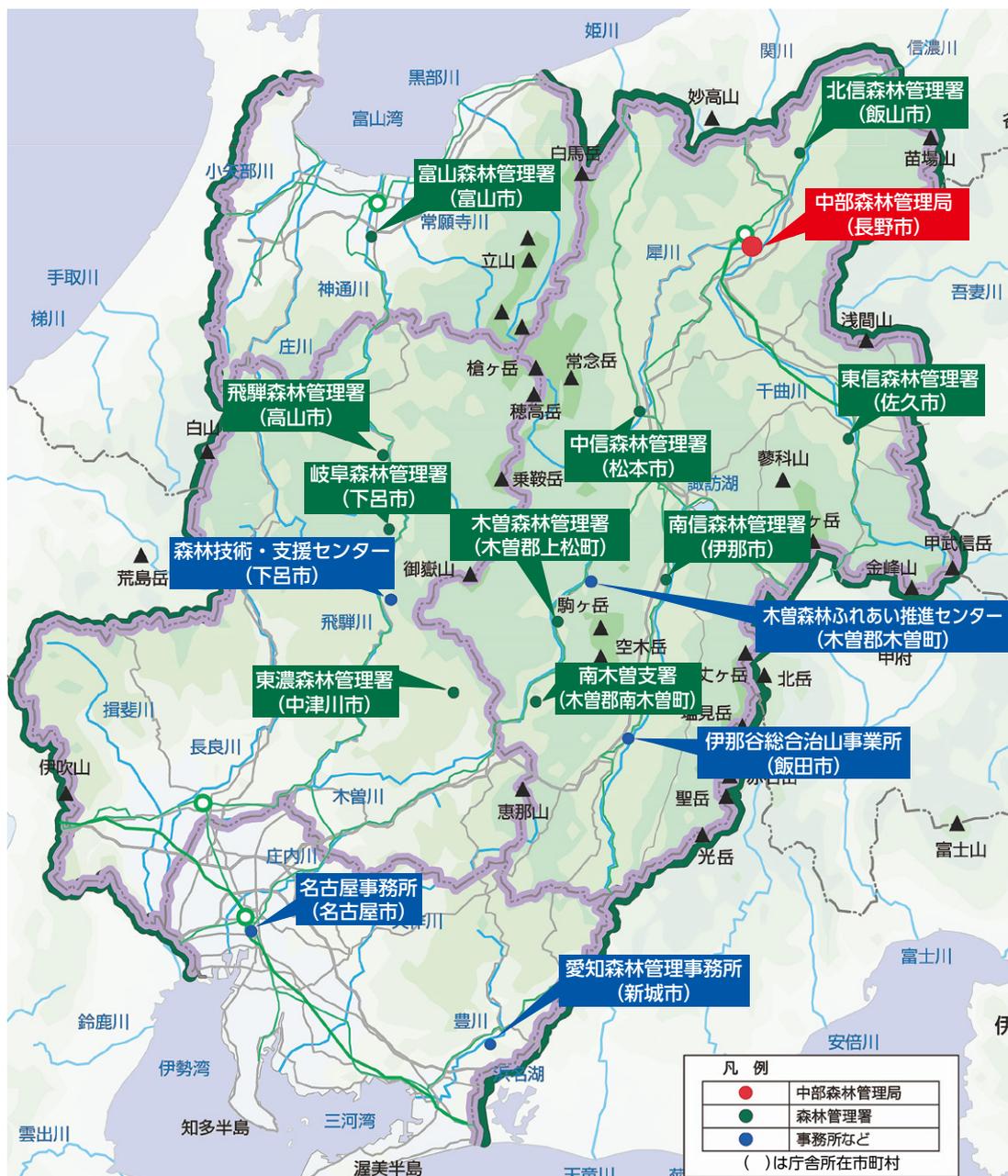


広報
「中部の森林」



用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市中熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市白田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
(毎月10日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります)
登録サイト <https://mailmag.maff.go.jp/m/entry>



本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。